

## 学校文化の地域性と起源

京都大学理事 森 田 正 信

我が国の学校教育においては、学習指導要領やいわゆる義務標準法、義務教育費や施設費の国庫負担法など、国において、教育課程や教育条件整備の基準が定められ、全国的な機会均等、水準の確保を図る仕組みが整えられています。その意味で、全国均一・中央集権的な教育体制であると思われがちです。

しかし実は、児童生徒や教員を取り巻く日常の学校文化には、地域による差異が多種多様に見られます。これは、それぞれの土地の方言があるのと同じように、様々な部分に渡っています。

本稿は、筆者がこれまで30年近く文部科学省在勤中などに各地の教育関係者を通じ見聞したことや、各種のメディア等で紹介されていて記録していたものを整理できないかと考え、まとめてみた一つの試みです。我が国の教育は、多様な地域性や歴史性を内包しているとも言えることがお分かりいただけるのではないかと思います。

### 1 授業・教科指導に関するもの

#### (1) 授業に関するもの

授業が始まる時、日直（兵庫では、**日番**と言います。）が、「起立・礼」、「着席」という号令をかけるのが一般的です。しかし、鹿児島では「**起立・姿勢・礼**」、群馬や宮城では「**起立・注目・礼**」と言ひ、沖縄では、座ったまま「**正座・礼**」と言うのが一般的です。

授業中に先生が生徒を「当てる」ことを、新潟では「かける」と言います。例えば、「**先生にかけられた**」となります。生徒が先生に「宿題を提出する」ことを、茨城では「宿題をあげる」と言います。宿題の提出日に、先生が「**宿題をあげてください**」と言うそうです。宮崎では宿題を「**宅習**」と言います。これらは、**学校方言**とも言うべきものです。

ノートと言えば、ジャポニカ学習帳や大学ノートを使うのが一般的ですが、神戸の小学校では「**神戸ノート**」という独自のノートを使っています。地元業者が製造・販売しており、表紙は神戸のいろいろな風景写真で、各教科用のもののほか、連絡帳、自由帳などもあります。ちなみに、**大学ノート**は、帝国大学（現在の東京大学）の前の文房具店が販売したのがその名の由来だそうです。**ジャポニカ学習帳**は、富山の高岡で生まれました。

#### (2) 時間割に関するもの

**全校朝会（朝礼）**は、明治期の校長先生による修身の授業（講話）が元になっていると言われています。週1回など定期的に行われるのが一般的ですが、富山など定期的な朝会はない地域もあります。

授業と授業の間の時間は「休み時間」と言います。しかし、愛知では、休み時間を「**放課**」と言います。普通の休み時間を「10分放課」、2時間目と3時間目の間の長い休み時間を「**大放課**」、給食のあと

の休み時間を「昼放課」などと呼びます。名古屋出身の人に、「放課」と言うのは、愛知だけだと告げたところ、それは知らなかったと大変驚かれています。学校文化というのは、それぞれの地域で、あまりに当たり前になっていて、日本中どこでも同じだと思いがちですが、実はそうではないことが意外に多いことの一例です。なお、小学校で、2時間目と3時間目の間の休み時間は、「**業間休み**」と言うことが多いですが、石川では「**長休み**」、広島では「**大休憩**」と言います。

学校の**チャイム**は、「キンコーンカーンコーン」というお馴染みのメロディが多く和学校で使われていますが、これは英国議事堂の時計塔「ビッグベン」の鐘の音を使ったもので、日本では、1950年代に始まったそうですが、発祥の地は東京という説、広島という説があり、はっきりしないようです<sup>1</sup>。

### （3）歴史教育に関するもの

**郷土の偉人**への尊敬の念は、各地で見られます。例えば、歴史上の人物は、普通敬称は省略しますが、山梨では「武田信玄公」、石川では前田利家と夫人を「利家公」「お松の方」、熊本では加藤清正を「清正公さん（せいしよこさん）」と呼びます。福島では白虎隊の歴史は丁寧に教えます。愛知・あま市には、正則（まさのり）小学校という学校がありますが、福島正則の生誕地であり、学校の名前になっています。山形・米沢の学校の体育館には、上杉謙信の肖像画が掛けられています。滋賀の彦根東高校の校訓は「赤鬼魂」という珍しいものですが、これは、彦根藩主・井伊家の兵の「赤備え」から来ています。鹿児島島の鶴丸高校の校名は、薩摩藩主・島津家の居城である鶴丸城から、また、同県の甲南高校の校名は、大久保甲東（利通）の一字と西郷南洲（隆盛）の一字から来ています。東海道五十三次の中間点に当たる静岡・袋井の袋井東小学校は「どまん中東小学校」という表示を掲げています。

### （4）国語教育に関するもの

岩手では、宮沢賢治の詩を、山口・萩の明倫小学校では吉田松陰の言葉<sup>2</sup>を暗唱させ、栃木・足利の小学校では、日本最古の学校である**足利学校**の伝統を受け継ぎ、論語を素読させます。

長野には、「**白文帳**」という長野限定の漢字練習帳があります。戦前、長野県の教師が考案したもので、1頁に縦18マス、横13マスの234文字を毎日練習するというものです。福井では、『白川静博士に学ぶ楽しい漢字学習』という副読本が全ての小学校で使われています。同博士は、福井出身の漢文学者です。

群馬では、「**上毛かるた**」は、学校で大会が行われるなど盛んであり、群馬出身の人は大体覚えていきます。福井の越前・坂井・あわら周辺は、百人一首の**競技かるた**が非常に盛んで、学校帰りに公民館などで練習します。北海道では、百人一首は下の句だけで競技を行います。

愛媛は、正岡子規を生んだ地であり、**俳句**が盛んです。町に投句ポストが設けられ、高校生の俳句甲子園も行われています。

和歌山市では、**書道**に熱心であり、「市民憲章競書会」への参加を誰もが経験しています。福島・奥会津では、地域の6歳の子供が「火の用心」と習字で書き、これを各家庭に配り、家の中に張る風習があるそうです。「6歳」が「無災」を意味し、学校に上がる子供たちに、筆の使い方を教える意味合いもあったと見られています。岡山などでは、習字で字を書くときの一画目を「**うったて**」と言います。

## （５）算数教育に関するもの

数字や時間の言い方ですが、例えば「２０、２１、２２、２３・・・」を岡山では「にじゅう、にいち、にいに、にいさん・・・」と言い、大分では、例えば２時５０分のことを「３時１０分前」ではなく、「**３時前１０分**」と言います。明日の次は「あさって（明後日）」、その次は「しあさって（明々後日）」が標準語ですが、三重では「あさって」の次は「**ささって**」、その次が「しあさって」となり、「しあさって」が指すのは４日後だということになります。これらの地域では、学校ではどう教えているのか気になります。定規（物差し）のことを、関西、中四国では「**さし**」と、群馬や静岡では「**線引き**」と言います。

## （６）体育に関するもの

薩摩出身の初代文部大臣・森有礼は、学校教育における兵式体操を奨励しました。「**気を付け！」「前にならえ！**」という号令は、森有礼が、師範学校の歩兵操練に導入したのが始まりと言われています。

運動場や体育館で両膝を抱えて座る座り方を、関西では「**三角座り**」、愛媛では「**おちよっぽ**」と言います。全国的には、「**体育座り**」が多いですが、「体操座り」「体育館座り」「安座」のほか、一部には「お膝抱っこ」「箱座り」「お山座り」「くの字座り」「Ｓ字座り」などの呼び方もあるそうです。森見登美彦氏の小説『太陽の塔』に、京大生が四畳半のすみで「三角座り」をする、という場面が出てきますが、関西ならではです。

福岡では、先生が「座れ！」と言うと、子供たちが一斉に「やー！」と言って座り、「立て！」と言うと、「やー！」と言って立ちます。「**座れ！やー！」「立て！やー！**」となります。「**全体、止まれ！**」と先生が言うと、全国的には「１・２！」または「１・２・３！」で止まるの多いですが、福岡では「１・２・３・４・５！」まで言って止まります。

学校における**水泳**の授業は、大阪の旧制茨木中学校（現・茨木高校）が発祥の地と言われています。スクール水着は、全国的には紺色ですが、鳥取ではオレンジ色です。鳥取に転校すると、結構驚くようです。ジャージのことを、山梨では「**ジャッシー**」、宮城では「**ジャス**」と言います。

石川には「**若い力**」、千葉には「**なのはな体操**」、大阪の堺には「**堺っ子体操**」というように地域独自の体操が行われています。「若い力」は、戦後直後石川で開催された際に制定された国民体育大会の歌で、石川ではそれに合わせた体操がそれ以来行われているとのこと。

## ２ 教科外指導に関するもの

### （１）学校給食、清掃に関するもの

**学校給食**の発祥は、明治期に、山形・鶴岡のお寺が開設した学校で、お弁当を持ってこれない貧しい家庭の子供のために始められました。当時のメニューは、おむすび、魚の干物、漬け物でした。給食の献立にも地域色が出ます。静岡では、牛乳ではなく**お茶**、愛媛では**ポンジュース**が出る日があります。岐阜南部では「**金魚めし**」（人参を炊き込んだご飯料理）という献立があります。山口では、ふぐの雑炊や唐揚げが出ます。三重の「**津ギョウザ**」のように元は学校給食の献立であったものがご当地グルメに育ったものもあります。長野の塩尻市では、キムチとたくあんを混ぜた「**キムタクご飯**」や衣に油揚げを使った「**コンコンコロッケ**」といったユニークなメニューがあります。**ミルメーク**（牛乳に入れる

とコーヒー牛乳味になる粉末調味品)は、名古屋の大島食品工業という会社が製造・販売している商品で、昭和40年代から各地の給食に出されています。

**掃除**を毎日子供たち自身が行うのは、日本の特徴です。宮崎ではもんぺを、福島県のいわき市ではひざ当てを、親に作ってもらったり、買ってきたりして、清掃の時に子供たちが身に付けます。長野では、無言清掃が行われます。

## (2) 運動会、部活動に関するもの

我が国における**運動会**の起源は、東京の海軍兵学寮(後の海軍兵学校)が行った競闘遊戯会とされますが、学校教育に取り入れられたのは、森有礼が師範学校における兵式体操発表の場として奨励したことによります。**校内マラソン大会**は、兵式体操から派生して、高等師範学校(現在の筑波大学)で行われた健脚競争が起源であり、**健康診断**は、東京の体操伝習所(後に高等師範学校に統合)で行われた活力検査が起源です。

クラス対抗戦などを行うとき、「赤組」「白組」「青組」「黄組」など色で分けることが多いと思いますが、群馬では「赤城」「榛名」「妙義」「浅間」など山の名前で分かれます。

騎馬戦のことを、北九州の小学校では「川中島」という種目名で呼びます。長野から遠く離れた北九州でなぜこの名になったかについて、運動会が定着した明治期に、全国的に競技を源平合戦になぞらえることが多かったのに対し、壇ノ浦が近くゆかりが深すぎる北九州ではそれを避け、あえて決着がつかなかった川中島の名が使われたと推測されています<sup>3</sup>。愛媛の一部では、「村上水軍の乱」と言うそうです。浜松の小学校では、「城落とし」という種目があります。三方ヶ原の戦いがモデルになっています。2つの軍に分かれ、段ボールで城を作り、騎馬戦や玉入れの球の投げ合いを行い、落とされた城から最後に煙が上がるという、小学校にしては大がかりな仕掛けの競技ですが、最近は、行事の負担もあり、これを行う学校は以前よりは減少しているようです。

福島では、徒競走を「はねくら」と言います。和歌山には、運動会の開会式か閉会式で歌う「**運動会の歌**」という独自の歌があります。

山形の運動会では**花笠音頭**、群馬では**八木節音頭**、徳島では**阿波踊り**を行う学校はかなりあります。高知の小・中学校では**よさこい**を踊りますが、よさこいは、今や全国各地で取り入れられています。

**部活動**の発祥は、帝国大学のボート部(漕艇部)とされています。部活動を**班活動**と呼ぶ高校があります。野球部ではなく野球班、テニス部ではなく庭球班という具合であり、東京、長野、滋賀などの戦前の旧制中学に起源を持つ伝統校に見られます。中には、サッカー部を蹴球(しゅうきゅう)班、バスケットボール部を籠球(ろうきゅう)班、バレーボール部を排球班というように、戦前のままの呼び方をしている学校もあります。

## (3) 修学旅行、遠足に関するもの

**修学旅行**の起源は、東京師範学校が、千葉・銚子方面まで長距離を歩いた行軍旅行の「長途遠足」だとされます。**学割**の起源も修学旅行にあり、鹿児島県の私立学校の団体からの建議で通信省が修学旅行生の割引措置を行ったのが始まりだとされます。秋田では、修学旅行先での安否をテレビCMで流しているそうです。「〇〇中学校の修学旅行団 日程●日目 全員元気に××を見学中です。提供(スポンサ

一企業名)」というCMが流れるとのこと。修学旅行のないところもあり、石川、富山の小学校、島根の高校がそうです。

**遠足**は、寺子屋などで行楽に行く江戸時代の慣行が元になって、明治期に学校行事として定着したとされます。秋田では「**なべっこ遠足**」という名で、遠足先できたんぼ鍋を作って食べます。これは年間最大の行事だそうです。大分では、長距離を歩く「**努力遠足**」、新入生を歓迎する「**お見知り遠足**」という名の遠足が行われています。

山梨の甲府第一高校、北海道の北見北斗高校は「**強行遠足**」を行っており、いずれも旧制中学時代以来の伝統を持ちます。特に、甲府第一高校の男子は長野・小諸まで100km強を歩くそうです。大阪教育大学附属高校天王寺校舎の「百粍（キロ）徒歩」、茨城の水戸第一高校の「歩く会」も同様のものです。鹿児島高校では「**遠行（えんこう）**」と言い、桜島一周遠行や薩摩半島縦走を行う学校があるほか、鹿児島市の小学校には、桜島までの錦江湾横断遠泳を行う学校もあります。長野の中学校では、3千メートル級の山へ登ります。各地に鍛錬の伝統があることが分かります。

#### （４）儀式的行事に関するもの

宮崎では、10歳になる小学校4年生で「**2分の1成人式**」が行われてきましたが、これが国語の教科書で紹介され、各地に広がっています。中学校2年で、愛媛では「**少年式**」、宮崎、熊本、鹿児島では「**立志式**」を行う学校が多くあります。こちらは、元服をモデルにした行事で、やはり他地域でも行われるようになっていきます。いずれも生徒が将来の決意や目標を述べます。

**卒業式**の発祥は、陸軍戸山学校とされています。小学校の卒業式で「**仰げば尊し**」を歌った最初は、福岡の高等小学校、大学では東京音楽学校（現在の東京藝術大学）とされます。「**蛍の光**」を卒業式の曲目に入れたのは、海軍兵学校と言われています。卒業証書を入れる筒は、ワニ柄が定番ですが、これを始めたのは、東京の小林丸筒製作所で1935（昭和10）年頃だそうです。

**校歌**の発祥は、東京女子師範学校の開校に当たり明治天皇の皇后陛下から下賜された歌「**みがかずば**」で、そのまま現在のお茶の水女子大学の校歌になっています。静岡、山梨では、9割の学校の校歌に「富士」の言葉が出てくるそうです。

長野は、県歌「**信濃の国**」を県民誰もが歌うことで有名ですが、これは信濃教育会（1886（明治19）年設立の伝統ある教員職能団体）の依頼で、長野県師範学校（現在の信州大学教育学部）の教師が作詞・作曲した唱歌が、戦後、県歌になったもので、同時に、信州大の附属長野小学校の校歌でもあるというものです。同じく地域で浸透しているのが**横浜市歌**だと思われます。横浜開港50年を記念して1909（明治42）年に制定され、森鷗外が作詞しています。横浜の学校では、校歌並みに歌唱指導が行われ、横浜市立大学を含め、横浜市の学校では入学式や卒業式で歌います。

ところで、**校歌の歌詞**は、戦前の尋常小学校、旧制中学校などの時代からのものを継承している小学校、高校の場合、歌詞が文語調で難解であるのに対し、現在の中学校は、戦後発足した制度で、校歌も戦後作られているので、分かりやすく民主的な内容のものが多くという傾向があると思います。高校の例を見ますと、水戸第一高校、静岡高校、長野の松本深志高校、福岡の修猷館高校、熊本の済々黌（せいせいこう）高校などの校歌（修猷館高校は館歌、済々黌高校は黌歌）には、「**列強と並びて進む帝国**」「**義勇奉公**」「**男児（おのこ）栄えあれ**」「**皇国（みくに）のために**」「**恩命（おんめい）一下**」などの言葉が使われて

おり、学校によっては、その曲番は現在は歌わないという場合もあります。ところで、曲の1番、2番・・・のことを、富山、石川では「**1 題目、2 題目・・・**」と言うのだそうです。

その他の**教科外活動**にも、地域による特色があります。福島市の小学校では、鼓笛隊が盛んで、大規模なパレードが行われます。滋賀では、小学校5年生が琵琶湖で「**うみのこ**」号という船に乗り宿泊学習するという経験をみんながします。岡山で宿泊学習をする青少年教育センターは、**閑谷（しずたに）学校**という名前が付いていますが、これは、江戸時代前期、岡山藩が設置した学校名で、庶民のための公立学校として世界最古のものとされます<sup>4</sup>。現在の**総合学習**は、大正期に長野で行われた信州自由教育が原点とも言われます<sup>5</sup>。

### 3 学級編制、校舎・校庭など教育環境に関するもの

#### （1）学級編制に関するもの

学校文化を見ていくと、**軍隊**から来ているもののがかなりあることが分かります。修学旅行、運動会、「前にならえ」の号令、ランドセル、詰め襟、セーラー服などです<sup>6</sup>。クラス編成のことは、公的には「学級編成」ではなく、「**学級編制**」と表記します（義務標準法の正式名称は「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」です。）が、このように普通と異なる表記になったのは、やはり軍隊の「編制」という言葉から来たためと考えられます。

クラスは、「1組」「2組」「3組」と数字を使うか、「A組」「B組」「C組」などのアルファベットを使うことが多いですが、長野では「**松組**」「**春組**」「**山組**」「**東組**」・・・のように、漢字を使う小学校が50校程度あります。「藤」「桐」「栗」「薊（あざみ）」「菖（あやめ）」「泉」「礼」「敬」「仁」「勇」などの字も使われるそうです。小学校では、クラス替えは2年に1回行う場合が多いですが、長野では、小・中・高校ともクラス替えはないのが普通でした。他方、沖縄では、小学校でも毎年クラス替えを行います。**同窓会**のことを、長野では「**同級会**」と言います。クラス替えがなかったためと思われる。沖縄では、国道や県道沿いに大きな横断幕を出し、同窓会の開催告知をする慣例があります。新潟では、花火大会の際、企業や団体と並んで、同窓会で花火を上げることがよくあるそうです。

#### （2）教室に関するもの

**黒板**は、フランスの発祥で、アメリカ人教師が、明治期に日本に導入したと言われています。**チョーク（白墨）**も、フランス発祥で、やはり明治期に大阪の業者が輸入したことから我が国に普及しました。黒板消し（黒板拭き）のことは、鹿児島、宮崎では「**ラーフル**」と言います。オランダ語の「ボロ布」という言葉から来ています。

教室に並ぶ机の縦の列の呼び方がある地域があります。埼玉や群馬では「**一の川**」「**二の川**」「**三の川**」・・・というように呼びます。神奈川や埼玉の小学校では「**一号車**」「**二号車**」「**三号車**」・・・と呼ぶこともあるそうです。

教室には時間割や係分担などが模造紙に書かれて張られていることが多いと思いますが、**模造紙**のことを、富山では「**がんび**」、新潟では「**大洋紙**」、岐阜、愛知では「**B紙**」、香川では「**とりのこ紙**」と言います。

教室の後ろの部分を、栃木では「**教室の裏**」と言います。掃除の時間などに机を運ぶことを、愛知、

三重、岐阜の南部では「机を吊る」、関西や中四国のかんりの地域で「机をかく」と言います。

### （３）校舎・校庭に関するもの

先生がいる部屋のことは「職員室」と言いますが、新潟では「教務室」と言います。保健室には養護教諭の先生がいますが、その起源となる「学校看護婦」の発祥の地は岐阜と言われています。島根、鳥取では、風邪などでお腹が痛くなる症状のことを「腸感冒」と言い、三重ではかさぶたのことを「かんばんたん」と言います。他県では通じない言葉です。

校長室には、歴代校長先生の写真が掛けられていることが多いですが、北海道では、歴代PTA会長の写真も掛けられていることがあります。

京都・宇治の学校では、水道の蛇口の中に、緑茶が出るものがあります。花壇の水やり当番のことを、長野、群馬、新潟では、「水くれ当番」と、ごみ捨て当番のことを、三重では「ごみほり当番」と言うそうです。

二宮尊徳（金治郎）像が置かれている学校は、減ったとは言え、今も目にすることができます。特に、生誕地である神奈川・小田原、農政再建に活躍した栃木のほか、東京でも健在です。明治期に修身の教科書で取り上げられ、昭和恐慌後に、富山の高岡周辺で銅器業者が銅製のものを、愛知の岡崎・豊橋周辺で石材業者が石製のものを製造・販売し始め、神戸の実業家が小学校に寄贈したことから寄贈ブームが起こり、普及したと言われています。

同じく、かつて学校でよく見られたのが、温度・湿度などの観測をするための百葉箱です。英国発祥で、岐阜・高山の大平産業という測量機器メーカーが戦後直後から現在まで製造していますが、見かけることは少なくなってきました。さらに、小学校にはトーテムポールがよくありました。戦後、アメリカ文化が影響し、卒業制作で流行したという説、電柱が木製からコンクリート製へ変わる中で木の柱を再利用したことによるという説、大阪万博が流行のきっかけになったという説などがあるようです。

### （４）学期制に関するもの

夏休みを日本で最初に設けたのは、東京開成学校（東京大学の起源の一つ）とされます。このときは、欧米に合わせた9月入学、2学期制でした。その後、1886（明治19）年に、高等師範学校が、会計年度に合わせ、4月入学、3学期制を導入し、それ以降、これが全国に広まりました。

夏休みの学習帳として、「夏休みの友」が使われている県がかなりありますが、発行者は、それぞれの県で民間業者だったり、教員団体や教育委員会だったり、内容は県ごとに異なっています。長崎では「あじさいノート」という名称です。夏休みの自由研究の発祥は、奈良女子高等師範学校（現在の奈良女子大学）附属小学校とされます。

それぞれの地域に独自の一斉休校日があります。東京では10月1日の都民の日、横浜では6月2日の海港記念日は休みです。長野では、田植え、稲刈りの時期に休校にする学校があります。

## 4 生徒指導に関するもの

### （１）制服に関するもの

詰め襟を男子の制服とした最初は、学習院（現在の学習院中・高等科）であり、海軍士官の服装がモ

デルとされました。その後、帝国大学が、陸軍士官の服装をモデルとした詰め襟を制服に採用し、全国に広がるようになりました。学ランとも言いますが、「ラン」とはオランダ（蘭）のことで、洋風を表すものでした。**オランダ語**から来た言葉が多いのは、鎖国時代の影響があると考えられます。

一方、女子の**セーラー服**は、英国で海軍の水兵服として生まれたもので、我が国で制服として導入されたのは大正期ですが、京都の平安女学院が最初だとする主張と、福岡女学院が最初だとする主張とがあります<sup>7</sup>。

現在、学生服メーカーとしては、カンコーとトンボが二大メーカーですが、いずれも岡山が本社です。岡山は綿花の栽培が盛んで繊維業が発達したことが背景にあると言われています。なお、カンコー（菅公）とは菅原道真公にちなんだ社名です。全国的には小学校には制服がないのが一般的ですが、岡山をはじめ中四国地方は、小学校も制服の学校が多くあります。なお、**生徒手帳**も、福武書店（現在のベネッセ）が作成したのが最初であり、岡山が発祥の地です。

## （2）持ち物に関するもの

**ランドセル**は、明治期に学習院初等科で導入されたのが学校用としての使用の最初です。オランダ語のランセルから来ており、もともとは陸軍の兵士の背負い鞆である背囊（のう）を意味しました。茨城の土浦・日立周辺では、小学校に入学する子供たちに、自治体がランドセルを支給しています。ランドセルを「背負う」ことを、福岡など九州中北部では、ランドセルを「からう」と言います。

京都の長岡京市周辺では、**ランリック**という地元業者が製造している独自のかけ鞆が通学用として指定されています。ランドセルとリュックサックを合わせたような鞆で、軽くて、安いという利点があります。

神戸の女子高生は、ファミリアの鞆を、宮城の高校生は、競技用ボールのメーカーであるミカサのバッグや、旧・東北工大高校（現在の仙台南高校）のスクールバッグである「**エ大バッグ**」を、みんなが愛用しているそうです。静岡市の小学生は、「横断中」という文字の入った地元業者が製造する「**横断バッグ**」という黄色の鞆を持って通学します。

小学校では、校舎内では上履きを履く学校が多いですが、神戸では小学校も普通、土足だそうです。山形の内陸部や福井では、上履き（上靴）のことを「**内ズック**」と言い、和歌山では「**バレーシューズ**」と言うそうです。ズックは、粗い麻布を意味するオランダ語が語源です。岐阜では、新しい靴を履く時、靴の裏を火であぶる習慣があるそうです。何かのおまじないのようなものが伝わっていると思われます。熊本の小学校では、体育館のステージには素足で上がるのだそうです。穴のあいた靴下を宮城の一部では「**おはよう靴下**」、長崎では「**じゃがいも**」と言うそうです。

## （3）日常の指導内容に関するもの

職員室などの入口に、熊本では「**あとぜき**」という張り紙がしてあることがあります。「開けた戸は閉める」という意味です。福島では、会津藩士の男子の心得とされた「**什（じゅう）の掟**」が今も伝わります。「嘘を言う事はなりませぬ」「弱い者をいじめてはなりませぬ」などからなり、締めくくりは、「ならぬことはならぬものです」。鹿児島でも、薩摩藩における**郷中（ごじゅう）教育**の教えである「負けるな 嘘を言うな 弱い者をいじめるな」は今も良く言われます。これそのものが鹿児島市の山下小

学校の校訓になっています。鹿児島では、西郷隆盛の言葉である「敬天愛人」の額が校長室や教育長室などに掛けられているのを見かけます。

什も郷中も、江戸時代に男子の教育を行った地域の単位です<sup>8</sup>。明治初期における日本で最初の近代的な小学校は、京都の**番組小学校**ですが、番組とは、当時の町の連合体です。これらは、今風に言うと、校区または学区ということになると思います。北陸では、校区のことを**校下（こうか）**と言います。校下子ども会、校下老人会などがあるのだそうです。

以上、学校文化の地域性と起源の一端を見てきました。学校教育における地域ごとの独自性は、情報の波にさらわれ、社会の変容とともに薄れてきつつあると思います。また、学校文化の中には、戦前以来のものもあり、現代の要請に合致しなくなって、変わらざるを得ないものもあります。

しかし、食文化などと同様、意外に根強く、それぞれの地域独自のものとして継承されていくものも多いと思います。地方創生が言われる中、こうした教育文化は、地域の資源にもなり得るものです。本稿で紹介したものについては、不正確な部分などがあるかもしれません。ご指摘いただけると幸いです。今回、主要なものを取り上げたつもりですが、更にそれぞれの経緯や背景を掘り下げていけば、我が国の学校文化の地域性について一層深い分析ができるのではないかと考えています。

#### 【参考文献】

- ・赤岩州五・北吉洋一『藩と県 日本各地の意外なつながり』（2010年、草思社）
- ・新谷泰明『学校は軍隊に似ている－学校文化史のささやき』（2006年、海鳥社）
- ・鈴木隆祐『名門高校生人脈』（2005年、光文社新書）
- ・山下龍夫『47都道府県 ケンミン性の秘密』（2014年、幻冬社）
- ・高橋誠『日本の大学の系譜』（2015年、ジアース教育新社）
- ・田村秀『「ご当地もの」と日本人』（2014年、祥伝社新書）
- ・八幡和郎『47都道府県の名門高校 藩校・一中・受験校の系譜と人脈』（2008年、平凡社新書）

---

<sup>1</sup> 平成19年10月1日付け「朝日新聞」。

<sup>2</sup> 吉田松陰が主宰した松下村塾は、明治日本の産業革命遺産の一つとして世界遺産に登録されています。

<sup>3</sup> 平成19年11月13日付け「朝日新聞」。

<sup>4</sup> 足利学校（日本最古の学校）、閑谷学校（世界最古の庶民のための公立学校）は、江戸時代最大の私塾である大分・日田市の「咸宜園（かんぎえん）」、同じく最大の藩校である茨城・水戸市の「弘道館」とともに、近世日本の教育遺産群として、文化庁の日本遺産に認定されています。

<sup>5</sup> 江戸時代の寺子屋や私塾の多さ、明治以降の就学率の高さなどの点で、「東の長野、西の岡山」と称されたことがあり、両県が代表的な教育県と見られることがあります。本稿でもお分かりいただけるように、長野と岡山には、特色ある学校文化があるように思われます。

<sup>6</sup> 新谷泰明『学校は軍隊に似ている－学校文化史のささやき』（2006年、海鳥社）。

<sup>7</sup> 平成19年10月6日付け「毎日新聞」。

<sup>8</sup> 会津と薩摩は、幕末に激しく対立した関係にありますが、地域単位で男子教育が行われ、嘘はいけないこと、いじめはいけないことを徹底した点など共通点があるのは興味深いことです。

## Regional Characteristics and Origins of School Culture in Japan

Masanobu MORITA

In Japan, the school system is supposed to be centralized and uniformed nationwide, based on the national laws and rules such as the Courses of Study. However, the actual school culture in which students and teachers are experiencing in daily lives is considerably different from region to region. It can be said to have rich diversity in terms of locality and historicity.

This paper shows various examples of such local school culture in the aspects of subject teaching, extra-curricular activities, educational environment and student guidance. They include the variety of the class styles, teaching of local historic heroes, physical education, school lunch, athletic festivals, school trips, school ceremonies such as graduation ceremonies, school songs, schoolrooms, schoolyards, school uniforms, and belongings at school, etc.

Through this introduction, we can discover that some of them are from Dutch words, probably because of the influence of the national isolation policy (Sakoku) of the Edo Period. We also recognize that some of the school cultures are originated in the style of the army, which were introduced under the policy of Meiji government to enrich the country and strengthen the military power. In addition, we know that regional dialects play a part in forming unique school culture.

These regional school cultures are now being homogenized in the information age. Some of the school cultures which were created under the environment of the pre-war era are now inevitably being changed and modernized. Even so, many of them will still continue to take root into each region and it is meaningful to study the history and backgrounds of such school cultures in order to understand the characteristics of Japanese school education.